

和歌山県白浜近海における シノノメサカタザメ幼魚の採捕記録

田 名 瀬 英 朋

Record of the young Guitarfish, *Rhina ancylostoma*,
from the coast of Shirahama

HIDETOMO TANASE

シノノメサカタザメ *Rhina ancylostoma* Bloch et Schneider は、西部太平洋からインド洋にかけて分布しており、全長 2.5 m 近くまで成長する大型のエイとして知られている。本種は胎生で、エイ類では珍しく遊泳型である。1.5 m 以上の大型個体は、西日本沿岸でしばしば採捕され、水族館で飼育展示されている（柳沢ほか1972, 西村・竹内1977, 田名瀬1985, 宮脇1986）。しかし幼魚の採捕例は、和歌山県南部町沖（全長 530 mm :

田名瀬1985）、愛知県渥美半島沖（全長 438 mm : 増田私信1986）の 2 例があるにすぎない。また、国営沖縄海洋博覧会記念公園水族館で飼育中の親魚が 4 個体（全長 460—475 mm）の幼魚を産出した例や（内田・戸田私信1987）、胎仔数 7 個体の記録（国家水産総局南海水産研究所ほか, 1979）がある。

瀬戸臨海実験所水族館では1986年末から1987年初めにかけて、和歌山県西牟婁郡白浜町近海で採捕された 8 個体の幼魚（表 1 の



写真 1 シノノメサカタザメの幼魚

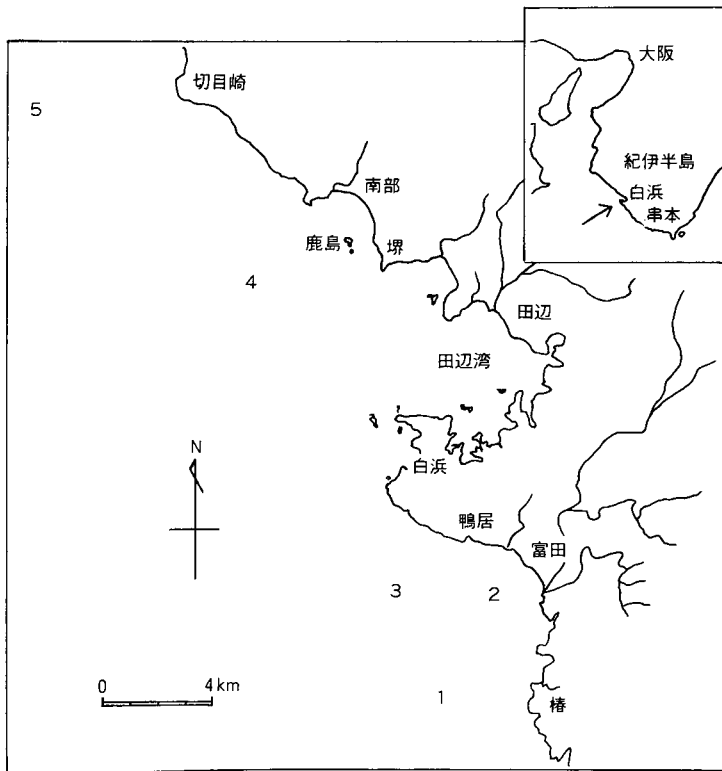
表1 シノノメサカタザメ幼魚の測定値および聞きとり結果

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11-14
全長 (mm)	448	508	478	513	512	516	512	?	530	438	460-475
体重 (g)	603	931	918	1,018	1,068	996	900	?	1,300	845	?
性	♂	♂	♂	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♂ 1, ♀ 3
採捕(年)	1986	1986	1986	1986	1986	1986	1987	1987	1967	1985	1986
採捕(月・日)	11.29	12.3	12.7	12.8	12.8	12.12	1.10	1.中旬	12.6	9.18	11.10生
採捕場所	南部町 鹿島沖	印南町 切目沖	印南町 切目沖	白浜町 富田沖	白浜町 富田沖	白浜町 富田沖	白浜町 鴨居沖	白浜町 鴨居沖	南部町 堺沖	愛知県 渥美半島沖	国営沖縄海洋博覧 会記念公園水族館
採捕水深 (m)	40	70	70	20	20	20	65	70	?	?	——
採捕方法	底刺網	底刺網	底刺網	地曳網	地曳網	底刺網	底刺網	底刺網	底刺網	底曳網	——

個体番号1—8)を入手した。本種の幼魚が短期間にまとまって採捕された例は珍しいので、その概要を紹介する。

幼魚の色彩は、全身が褐色で不明瞭な白色斑を持つ成魚とは著しく異なり、青灰色の地に大型の白色斑が散在し、胸鰭基部の黒色斑が鮮明である(写真1;益田ほか,1980)。若魚の斑紋は幼魚とはほぼ同様であるが、体色

は黒ずみ、各鰭は褐色化する(Burgess and Axelrod, 1974;福建魚類誌編集小委員会, 1984)。幼魚の測定値および聞きとりから得た採捕の記録を表1に示す。この表には、1967年の1例および私信による記録(個体番号9—14)も示した。8個体(雌3,雄5)の幼魚は、1986年11月29日から1987年1月中旬にかけて、わずか25 km以内という狭い海



第1図 シノノメサカタザメの採捕地
1: 椿沖(成魚), 2: 富田沖, 3: 鴨居沖, 4: 鹿島沖, 5: 切目崎沖

域(第1図)で採捕されている。測定し得た7個体の全長、体重について見ると、全長では最小478 mm, 最大516 mm, 平均504 mm。体重では最小803 g, 最大1,068 g, 平均948 gと個体差が少ない。これは国営沖縄海洋博覧会記念公園水族館で、1986年11月10日に生まれた幼魚の記録(全長460—475 mm)に近く、生後あまり日数を経っていないことを示している。また飼育中の観察から幼魚の遊泳力は、それほど強くないので出生海域からの移動も少なく、1番の個体が採捕された11月29日以前の近い日に、白浜近海で生まれたものと思われる。しかし、これらの幼魚が同腹のものであるかどうかは立証できない。

1986年に和歌山県沿岸では、この幼魚の他に2個体の成魚が採捕されている。このうち1個体は、全長209 cm, 体重72.7 kgの雌で10月21日に当実験所水族館に搬入されたが、口腔内奥部にかかった延縄の釣鉤がとれず12月28日に死亡した。採捕地は白浜町椿沖で、幼魚の採捕海域南端から約4 kmしか離れていないが、これを親魚とする確証はもろもない。

生きて当実験所水族館に入った6個体の幼魚のうち最も長く飼育できたのは、5番の個体でナンキョクオキアミを自力摂餌していたが、入槽後33日目に死亡した。他の5個体も1—7日しか生存しなかった。国営沖縄海

洋博覧会記念公園水族館での産出個体も、3日の短命であった。この原因については、飼育環境の不備、餌料の不適合、採捕時の取扱い不良(小型の軟骨魚類は手荒に扱うと脊椎骨に損傷を受けることがある)などが考えられるが、今のところよく判らない。

おわりに、貴重な情報を提供された国営沖縄海洋博覧会記念公園水族館 内田詮三・戸田実、碧南海浜水族館 増田元保、標本の入手と飼育に尽力された当実験所水族館飼育職員の各氏、およびこの原稿に対する御意見をいただいた原田英司所長と荒賀忠一学芸員に感謝の意を表する。

参 考 文 献

- Burgess, W. E. and Axelrod, R. 1974. Pacific Marine Fishes. Book 4: 1072—1073.
- 福建魚類誌編集小委員会編 1984. 福建魚類誌, 上巻: 57—58. (中国語).
- 国家水産総局南海水産研究所ほか編 1979. 南海諸島海域魚類誌: 20—21. (中国語).
- 宮脇逸朗 1986. シノノメサカタザメの飼育と死. マリンパビリオン, 15(2): 4.
- 西村芳博・竹内経久 1977. シノノメサカタザメの飼育について. 京急油壺マリンパーク水族館年報, 9: 32—34.
- 田名瀬英朋 1985. シノノメサカタザメの飼育および相対成長式について. 動水誌, 27(4): 131.
- 益田ほか編 1984. 日本産魚類大図鑑. pl.13—C.D: 12. 東海大学出版会.
- 柳沢踐夫ほか 1972. シノノメサカタザメの飼育例. 動水誌, 14(2): 42—44.